

日本は和の国

早いもので、2018年も終わろうとしています。そして、平成もまた終わりを迎えようとしています。皆さんは今年の大晦日をどのように迎える予定ですか？

さて、12月31日のことを大晦日（おみそか）といいます。晦日（みそか）とはどういう意味でしょうか。晦とは「つごもり」とも読みます。昔の物語には、「おつごもりのぼんに」等の言葉が書いてあって、子ども心に「なんのことだろう」と考えたものです。

晦（つごもり）には「よく分からない」とか「隠れる」という意味があります。昔の日本のカレンダーは太陰暦で作られていたので、月が欠けていって見えなくなる最後の日を月が隠れるということで「晦（つごもり）」と呼んだのです。



12月の晦は1年間の最後だから、大晦日というわけです。

また、晦は「月隠り（つきごもり）」が転じたものであるという説もあります。30のことを「みそ」と読むのも由来に関係があるかもしれませんね。

では、ここで数字の読み方に話を移していきます。

30は「みそ」です。三十代のことを三十路（みそじ）って言いますもんね。では40以降はなんと読むかご存じですか。

40は「よそ」、50は「いそ」、60は「むそ」、70は「ななそ」、80は「やそ」、90は「このそ」です。では100は！「もも」と読みます。さらに進んで、二百以降は、「ふたほ」「みほ」と「ほ」を付けて読んでいきます。そして、千は「ち」、万は「よろず」と読みます。

子どものころに、近所にあった商店のことを、祖母が「よろずやさん」と呼んでい

ましたが、よろずが「万」を表し、「何でもある」という意味で使われていたことを知ったときは、日本語って面白いなあと思いました。

話を戻します。お正月に門松を飾ったり、鏡餅をお供えしたりしますよね。これにもちゃんと意味があります。古来、日本ではお正月になると「年神様」と呼ばれる神様が各家を回るとされていました。年神様が訪れた家には無病息災、五穀豊穰がもたらされるというのです。その神様が迷わないように目印としたのが「門松」です。また、家に訪れた年神様が訪問後にいる場所が「鏡餅」なのだそうです。

日本人は、この世のありとあらゆる場所や物に神様がいると信じていました。水にも机にも、部屋と部屋の間の敷居にまで神様はいて、踏んだり座ったりすると「ばちがあたるぞ！」と怒られたものでした。

では、日本にはどのくらいの数の神様がいますか？

答えは、八百万です。よく「やおよろずの神」と言いますよね。

ところで、もうすぐ子どもたちが楽しみにしているクリスマスがやってきます。いや、子どもだけでなく、この日はなぜか日本全体で様々なイベントが開かれます。

でも、考えてみると、クリスマスはイエスキリストの誕生日であり、キリスト教徒以外には全く関係がありません。そんな外国の神様までお祝いしてあげるなんて、海外だったら考えられません。さすがは「和の国」日本だと思いませんか。

今年も残すところあとわずかです。年末年始はこんな話でもしながら、家族で仲良く、ぐるりと輪になって、幸せなお正月をお迎えください。今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。

感謝であられた収穫祭

今年度の収穫祭は数年ぶりに天候に恵まれ、餅つきやグランドゴルフなど、屋外での活動を行うことができました。また、た

くさんの保護者の皆様、学校を支援してくださっている皆様、地域の皆様に来ていただき、子どもたちも大変喜んでおりました。

収穫祭のテーマは「感謝」でした。子どもたちにいつも話すのですが、「ありがとう」の反対の言葉は「当たり前」です。日々の学校生活や学習は、学校の中だけでは到底できません。保護者の皆様が愛情たっぷりに子育てをし、学校に送り出してくださること、地域の皆様から学習の環境提供や指導などのお手伝いをいただいていること、そして、あいさつをしたり声をかけてくださったりと、温かく見守ってくださっていること。これらのことが決して「当たり前」ではなく、「有り難い」ことであることを感じる場なのです。坂本小学校の子どもたちが、沢山の方々に支えられ、見守られて育っていることを改めて感じた一日となりました。子どもたちは、幼少時代に感じ取ったことを、大人になって周りの人に返していきます。どこで生きていくかは別として、周りの人とのつながりを大切にする、心ある大人に育ってくれることと思います。

子ども達の健闘をたたえます！

- ◇西臼杵郡民スポーツ際 剣道競技の部
団体戦 準優勝 坂本道心会 A
個人戦 3年生の部 優勝 畦池颯海
5年生の部 準優勝 落合史蘭
6年生の部 優勝 甲斐右恭
準優勝 藤川秀虎
- ◇宮崎県読書感想文コンクール
二席 3年 畦池 颯海
4年 倉 貫介
佳作 3年 甲斐みちる
- ◇西日本読書感想画コンクール
入選 1年 岩本 千夏
6年 松田紀美香

バードウォッチング

季節の変化を感じる時が、皆さんにもあるかと思います。「木々が芽吹くのを見て春」「ホトトギスの声を聞いて夏」「サンマを食べて秋」「風の冷たさで冬」というように、五感を使って、人それぞれに季節の変わり目を感じているのではないのでしょうか？

野鳥好きの私は、野鳥の生態により、視覚と聴覚を使ってその変化を感じる人が多いです。私に冬の訪れを知らせてくれるのは、ジョウビタキという野鳥です。日本には冬鳥として全国に渡来して、主に積雪の少ない地方で越冬します。春になると早めに帰って行き、4月にはほとんど姿を見ません。五ヶ瀬町にももちろんやってきます。時々、ちょこんとお辞儀をして尾を振るわせる仕草がとても愛らしい鳥です。写真では分かりにくいかもしれませんが、雄と雌では羽の色模様が違います。「ヒッ、ヒッ」「カッ、カッ」というように鳴くことから、地方によってはヒンカチとも呼ばれています。縄張り意識が強く、車のサイドミラーなど映った自分の姿に攻撃を仕掛けます。サイドミラー周辺に鳥の糞が付いたら、ジョウビタキかセキレイの仕業です。

私は、秋の終わり頃にその年に見る初めてのジョウビタキには、「お帰り！！」と、つい声をかけてしまいます。そして、冬の訪れを自覚するのです。



おまけ 頭の体操

問題 (岡山中入試問題)

30人の男女を乗せたバスが停留所に着いたとき、男半分と女4人が降りてから、男女合わせて15人が乗ったため、バスの中は男20人、女15人になりました。初めの30人のうち、女の人は何人だったか求めなさい。

答え 人

※ 答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。

坂本小学校の合言葉

あ あかるく
し しんげんに
た たくましく